

浄化槽施工マニュアル新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>浄化槽の施工等に関する協会事業規約</p> <p>(主 旨)</p> <p>第 1 条 会員は、水質汚濁防止を図るための責務を果たすことが極めて重要である現況に鑑み、<u>浄化槽法 (昭和 58 年法律第 43 号)</u>、<u>建築基準法 (昭和 25 年法律第 201 号)</u>、その他関係法令並びに愛知県の行政指針に基づく構造及び十分な性能を有し、維持管理が容易であり、耐久性に富む浄化槽を設置しなければならない。これらを考慮し設計と施工に関し適正な設置を推進するためにこの規約を制定する。</p> <p>(事業の推進)</p> <p>第 3 条 協会は、会員がこの事業を円滑に推進し、かつ遂行ができるように、県、市町村並びに設計、建築、設備等関係業界 <u>又</u> は設置者に対して、必要に応じて当該事業の主旨説明を行い、理解を得るよう努めなければならない。</p> <p>(対象と基準)</p> <p>第 4 条 この規約は、<u>国土交通大臣が定めた構造方法 (構造例示型) 又は国土交通大臣の認定を受けたもの (大臣認定型)</u> を対象とする。また、協会は浄化槽の適正な設置を推進するため施工マニュアルを必要に応じ別に定めるものとする。</p> <p>(委員会)</p> <p>第 6 条 この事業を推進し、その目的を達成するために、委員会設置規定 <u>第 2 条第三号</u> により <u>技術委員会</u> (以下委員会という。) を設け、委員長は会長が指名する。</p> <p>浄化槽設備士の身分と業務</p>	<p>浄化槽の施工等に関する協会事業規約</p> <p>(主 旨)</p> <p>第 1 条 会員は、水質汚濁防止を図るための責務を果たすことが極めて重要である現況に鑑み、<u>建築基準法 (昭和 25 年法律第 201 号)</u>、<u>浄化槽法 (昭和 58 年法律第 43 号)</u>、その他関係法令並びに愛知県の行政指針に基づく構造及び十分な性能を有し、維持管理が容易であり、耐久性に富む浄化槽を設置しなければならない。これらを考慮し設計と施工に関し適正な設置を推進するためにこの規約を制定する。</p> <p>(事業の推進)</p> <p>第 3 条 協会は、会員がこの事業を円滑に推進し、かつ遂行ができるように、県、市町村並びに設計、建設、設備等関係業界 <u>また</u> は設置者に対して、必要に応じて当該事業の主旨説明を行い、理解を得るよう努めなければならない。</p> <p>(対象と基準)</p> <p>第 4 条 この規約は、<u>昭和 55 年 7 月 14 日建設省告示第 1292 号に定める浄化槽</u> を対象とする。また、協会は浄化槽の適正な設置を推進するため施工マニュアルを必要に応じ別に定めるものとする。</p> <p>(委員会)</p> <p>第 6 条 この事業を推進し、その目的を達成するために、委員会設置規定 <u>第 7 条</u> により <u>協会検査委員会</u> (以下委員会という。) を設け、委員長は会長が指名する。</p> <p>浄化槽設備士の身分と業務</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

浄化槽施工マニュアル新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>工場生産の浄化槽の工事は比較的単純であるが、それでも単なる配管工事とは違った特殊な専門知識が必要であることは言うまでもない。ましてや、いわゆる現場打ちの浄化槽については、土木建築工学的知識、配管工事の知識だけでは浄化槽としての機能を発揮させることは難しく、従来より工事不備、不手際から十分な機能の発揮が困難な浄化槽も少なくなかった。</p> <p>特に近年の浄化槽の技術の進歩から、せっきく性能のいい浄化槽が開発、実用化されているのであるから、その生物学的機能を十分発揮できるように配慮し工事を行うことの重要性は、さらに高くなってきている。</p> <p>このように浄化槽の工事が技術的にも高度の知識技能を必要としていることから、浄化槽工事を実地に監督する者として浄化槽設備士の資格が創設されたのである。</p> <p>浄化槽工事業者は、営業所ごとに浄化槽設備士を置くとともに、浄化槽工事を行う際には、浄化槽設備士が自ら浄化槽工事を行う場合を除き、浄化槽工事を浄化槽設備士に実地に監督させ、又はその資格を有する者自らが監督しなければならないこととされている。</p> <p>浄化槽法第 7 章 浄化槽設備士（浄化槽設備士免状） 第 4 2 条 浄化槽設備士免状は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、国土交通大臣が交付する。</p> <p>一 （略）</p> <p>二 建設業法第 2 7 条に基づく管工事施工管理に係る技術検定に合格した後、国土交通大臣及び環境大臣の指定する者が国土交通省令・環境省令で定めるところにより行う浄化槽工事に関して必要な</p>	<p>工場生産の浄化槽の工事は比較的単純であるが、それでも単なる配管工事とは違った特殊な専門知識が必要であることは言うまでもない。ましてや、いわゆる現場打ちの浄化槽については、土木建築工学的知識、配管工事の知識だけでは浄化槽としての機能を発揮させることは難しく、従来より工事不備、不手際から十分な機能の発揮が困難な浄化槽も少なくなかった。</p> <p>とくに近年の浄化槽の技術の進歩から、せっきく性能のいい浄化槽が開発、実用化されているのであるからその生物学的機能を十分発揮できるように配慮し工事を行うことの重要性は、さらに高くなってきている。</p> <p>このように浄化槽の工事が技術的にも高度の知識技能を必要としていることから、浄化槽工事を実地に監督する者として浄化槽設備士の資格が創設されたのである。</p> <p>浄化槽工事業者は、営業所ごとに浄化槽設備士を置くとともに、浄化槽工事を行う際には、浄化槽設備士が自ら浄化槽工事を行う場合を除き、浄化槽工事を浄化槽設備士に実地に監督させ、またはその資格を有する者自らが監督しなければならないこととされている。</p> <p>浄化槽法第 7 章 浄化槽設備士（浄化槽設備士免状） 第 4 2 条 浄化槽設備士免状は、次の各号の一に該当する者に対して、建設大臣が交付する。</p> <p>一 （略）</p> <p>二 建設業法第 2 7 条に基づく管工事施工管理に係る技術検定に合格した後、厚生省令で定めるところにより厚生大臣及び建設大臣が認定した講習会の課程を終了した者。</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

浄化槽施工マニュアル新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>知識及び技能に関する講習</u>の課程を<u>修了</u>した者。</p> <p>2 <u>国土交通大臣</u>は、次の各号の一に該当する者に対しては浄化槽設備士免状の交付を行わないことができる。</p> <p>3 <u>国土交通大臣</u>は、浄化槽設備士がこの法律又はこの法律に基づく処分に違反したときは、その浄化槽設備士免状の返納を命ずることができる。</p> <p>4 浄化槽設備士免状の交付、再交付、書換え及び返納に関し必要な事項は、<u>国土交通省令</u>で定める。</p> <p><u>5 (削除)</u></p> <p><u>(削除)</u></p> <p><u>(削除)</u></p> <p>既製コンクリート管浄化槽の施工と検査等の実施要領 (その他)</p> <p>第6条 この要領に定めのない事項については、浄化槽の施工等に関する<u>協会事業規約</u>第6条に定める委員会がこれを定める。</p> <p>既製コンクリート事前審査から完了までのフロー(オープン掘削工事の場合)</p> <p>水盛・<u>遣方</u></p> <p>土工事</p> <p><u>埋め戻し</u></p> <p><u>底版配筋</u></p>	<p>2 <u>建設大臣</u>は、次の各号の一に該当する者に対しては浄化槽設備士免状の交付を行わないことができる。</p> <p>3 <u>建設大臣</u>は、浄化槽設備士がこの法律又はこの法律に基づく処分に違反したときは、その浄化槽設備士免状の返納を命ずることができる。</p> <p>4 浄化槽設備士免状の交付、再交付、書換え及び返納に関し必要な事項は、<u>建設省令</u>で定める。</p> <p><u>5 厚生大臣は、第一項第二号の厚生省令を定め、又は変更しようとする場合には、あらかじめ、建設大臣に協議しなければならない。</u></p> <p><u>不適正な浄化槽について</u> <u>(全文)</u></p> <p>既製コンクリート管浄化槽の施工と検査等の実施要領 (その他)</p> <p>第6条 この要領に定めのない事項については、浄化槽の施工等に関する<u>規約</u>第6条に定める委員会がこれを定める。</p> <p>既製コンクリート事前審査から完了までのフロー(オープン掘削工事の場合)</p> <p>水盛・<u>やり方</u></p> <p>土工事 <u>(掘削)</u></p> <p><u>埋戻し工事</u></p> <p><u>ベース配筋</u></p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

浄化槽施工マニュアル新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>底版コンクリート</u>打設 機器<u>取付</u>工事 電気・<u>機器取付</u>工事</p> <p>事前審査要領</p> <p>(1) (略) <u>全て</u>に適用する。</p> <p>(2) 事前審査の目的 <u>施工技術</u>の向上を図る。</p> <p>(3) 申込み時期 <u>確認申請書（建築物）又は浄化槽設置届の提出前に</u>協会に提出し、審査を受ける。</p> <p>(4) (略) ア <u>書類提出にあたっての注意点</u> <u>浄化槽調書 4 部又は設置届出書 4 部を事前審査申込書(様式-1) 2 部</u>とともに協会に提出する。審査後は<u>法令等で定める提出先</u>へ申請者が提出する。</p> <p>イ (略)</p> <p>(イ) (略)</p> <p>c <u>底版</u>コンクリートの構造計算書</p> <p>f (略)</p> <p>木造以外で 2 階建て以上または 300m²以上の建物については、原則として柱状図<u>又</u>は地耐力を検討した資料を添付すること</p> <p>(ウ) (略)</p>	<p><u>ベースC</u> 打設 機器<u>取り付け</u> 電気<u>設備</u>工事</p> <p>事前審査要領</p> <p>(1) (略) <u>既製コンクリート管を用いる浄化槽すべてについて</u>適用する。</p> <p>(2) 事前審査目的 <u>既製コンクリート管を用いる浄化槽の品質</u>向上を図る。</p> <p>(3) 申<u>し</u>込み時期 <u>建築確認申請及び設置届出の事前に</u>協会に提出し審査を受ける。</p> <p>(4) (略) ア <u>し尿浄化槽調書または設置届出書 3 部は、事前審査申込書類 2 部（様式-1）</u>とともに協会に提出する。審査後は<u>県または特定行政庁</u>へ申請者が提出する。</p> <p>イ (略)</p> <p>(イ) (略)</p> <p>c <u>ベース</u>コンクリートの構造計算書</p> <p>f (略)</p> <p>木造以外で 2 階建て以上または 300m²以上の建物については、原則として柱状図<u>また</u>は地耐力を検討した資料を添付すること</p> <p>(ウ) (略)</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(追加)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

浄化槽施工マニュアル新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>c 配筋図は、<u>底版</u>配筋を図示すること</p> <p>中間検査要領</p> <p>(1) (略)</p> <p><u>全てに適用する。</u></p> <p>(2) (略)</p> <p>設計図どおりの槽内寸法及び止水確認を行うことにより、<u>品質向上を図る。</u></p> <p>(4) 中間検査日程の<u>調整</u></p> <p><u>施工業者は希望する日を当協会と日程調整する。</u></p> <p>(5) (略)</p> <p>ア 槽毎の<u>底版</u>配筋写真</p> <p>オ 施工状況写真（掘削・水替え・捨コンクリート・<u>底版</u>コンクリート・杭打ち）</p> <p>ク 中間検査報告書（様式-2. <u>3. 4</u>）</p> <p>(7) (略)</p> <p>ウ 中間検査報告書による確認（様式-2. <u>3. 4</u>）</p> <p>(9) (略)</p> <p>ア <u>浄化槽設備士資格者の立会いを原則とする。</u></p>	<p>c 配筋図は、<u>ベース</u>配筋を図示すること</p> <p>中間検査要領</p> <p>(1) (略)</p> <p><u>既製コンクリート管を用いる浄化槽の施工の場合に適用する。</u></p> <p>(2) (略)</p> <p>設計図どおりの槽内寸法及び止水確認を行うことにより<u>既製コンクリート管浄化槽の品質向上を図る。</u></p> <p>(4) 中間検査日の<u>申し込み</u></p> <p><u>ア 施工業者は希望する中間検査日より 2 週間までに（一社）愛知県浄化槽協会へ電話（052-481-7200）にて依頼し、調整後中間検査日を決定する。</u></p> <p><u>イ 中間検査日を変更しようとするときは、電話または F A X（052-481-7207）により協会へ連絡する。連絡は、中間検査日の前日 15 時（土曜日を除く）までに行う。前日が休祭日のときは、休祭日の前日の 15 時まで連絡する。</u></p> <p>(5) (略)</p> <p>ア 槽毎の<u>ベース</u>配筋写真</p> <p>オ 施工状況写真（掘削・水替え・捨コンクリート・<u>ベース</u>コンクリート・杭打ち）</p> <p>ク 中間検査報告書（様式-2. 3. 4）</p> <p>(7) (略)</p> <p>ウ 中間検査報告書による確認（様式-2. 3. 4）</p> <p>(9) (略)</p> <p>ア <u>中間検査には浄化槽設備士の資格を有する者が検査立会を行う。</u></p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

浄化槽施工マニュアル新旧対照表

新	旧	備考欄
<p>イ 提出写真は、<u>現場名称・施工日・その他必要項目記載の黒板及び立会</u>いた浄化槽設備士が明らかになるように撮影することとする。</p> <p>完了検査要領</p> <p>(1) (略)</p> <p><u>全てに適用する。</u></p> <p>(2) (略)</p> <p>設計図書どおりの内部設備工事、設備機器及び漏水の有無の確認を行うことにより、<u>品質向上を図る。</u></p> <p>(3) (略)</p> <p>完了検査は、完了報告書とともに完了検査報告書（様式-5、<u>-6、-7、-8</u>）1部の提出後に行う。</p> <p>(4) 完了検査日<u>程の調整</u></p> <p>中間検査要領の（4）中間検査日<u>程の調整</u>に準ずる。</p> <p>(5) (略)</p> <p>完了検査報告書（様式-<u>5、-6、-7、-8</u>）に基づき目視による確認</p> <p>(7) (略)</p> <p>ア 完了検査は、<u>浄化槽設備士資格者の立会いを原則とすること</u></p> <p>イ 完了検査報告書（様式-8）に添付する写真は、<u>現場名称・施工日・その他必要項目記載の黒板及び立会</u>いた浄化槽設備士が明らかになるよう撮影<u>されていること</u></p> <p>（様式-3）中間検査チェックリスト</p>	<p>イ <u>中間検査の</u>提出写真は、<u>日付・現場名・立会</u>いた浄化槽設備士が明らかになるように撮影することとする。</p> <p>完了検査要領</p> <p>(1) (略)</p> <p><u>既製コンクリート管を用いる浄化槽の施工の場合</u>に適用する。</p> <p>(2) (略)</p> <p>設計図書どおりの内部設備工事、設備機器及び漏水の有無の確認を行うことにより<u>既製コンクリート管製浄化槽の</u>品質向上を図る。</p> <p>(3) (略)</p> <p>完了検査は、完了報告書とともに完了検査報告書（様式- 5、6、7、8）1部の提出後に行う。</p> <p>(4) 完了検査日<u>の申し込み</u></p> <p>中間検査要領の（4）中間検査日<u>の申し込み</u>に準ずる。</p> <p>(5) (略)</p> <p>完了検査報告書（様式- 5、6、7、8）に基づき目視による確認</p> <p>(7) (略)</p> <p>ア 完了検査<u>には</u>浄化槽設備士<u>の資格を有する者が立会</u>いを行う。</p> <p>イ 完了検査報告書（様式- 8）に添付する写真は、<u>日付・現場名・立会</u>いた浄化槽設備士が明らかになるよう撮影<u>することとする。</u></p> <p>（様式-3）中間検査チェックリスト</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

浄化槽施工マニュアル新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>底版</u>配筋 (様式-4) <u>中間完了検査・躯体寸法、漏</u>・チェックリスト</p> <p>(様式-6) 完了検査チェックリスト</p> <p>一般構造</p> <p>300mm<u>超</u>の場合は点検用ステップ又はピット等の構造になっているか</p> <p>原水ポンプ槽</p> <p>計量調整移送装置の構造</p> <p>接触ばっ気槽</p> <p>消泡装置の取付<u>と</u>消泡状態</p> <p>(様式-8) 漏水検査写真</p> <p>撮影日時</p> <p>月 日</p> <p>浄化槽施工マニュアル</p> <p><u>1</u> 浄化槽施工マニュアルの主旨</p> <p>1. <u>1</u> 浄化槽施工の前に</p> <p>(1) (略)</p> <p>ア (略)</p> <p>(エ) (略)</p> <p><u>特</u>に放流先は市町村によって規制が異なる場合があるので注意する。</p>	<p><u>ベース</u>配筋 (様式-4-1) <u>躯体寸法</u>チェックリスト <u>(様式-4-2) 躯体寸法 (ホッパー) チェックリスト</u></p> <p>(様式-6) 完了検査チェックリスト</p> <p>一般構造</p> <p>300mm<u>以上</u>の場合は点検用ステップ又はピット等の構造になっているか</p> <p>原水ポンプ槽</p> <p>計量調整移送装置の構造<u>は</u></p> <p>接触ばっ気槽</p> <p>消泡装置の取付消泡状態</p> <p>(様式-8) 漏水検査写真</p> <p>撮影日時</p> <p>月 日 <u>時</u></p> <p><u>既製コンクリート管</u>浄化槽施工マニュアル</p> <p><u>1 設置基準</u></p> <p>1. 1 <u>既製コンクリート管を使用する</u>浄化槽施工マニュアルの主旨</p> <p>1. <u>2</u> 浄化槽施工の前に</p> <p>(1) (略)</p> <p>ア (略)</p> <p>(エ) (略)</p> <p><u>とく</u>に放流先は市町村によって規制が異なる場合があるので注意する。</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(削除)</p> <p>(追加)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(削除)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

浄化槽施工マニュアル新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>ウ</u> (略)</p> <p><u>エ</u> (略)</p> <p><u>(3)</u> (略)</p>	<p><u>(ウ)</u> (略)</p> <p><u>(エ)</u> (略)</p> <p><u>ウ</u> (略)</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(変更)</p>
<p>防水工事後水張りを行い、24 時間の<u>満水検査を行う</u>。</p>	<p>防水工事後水張りを行い、24 時間<u>後に漏水の有無を検査する</u>。</p>	<p>(変更)</p>
<p><u>(4)</u> (略)</p> <p><u>ア</u> (略)</p> <p>ブロワ等のばっ気用機械、<u>ポンプ類</u>、消毒装置、接触材等の据付は、説明書、仕様書に従って行う。</p>	<p><u>エ</u> (略)</p> <p><u>(ア)</u> (略)</p> <p>ブロワ等のばっ気用機械、消毒装置、接触材等の据付は、説明書、仕様書に従って行う。</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p> <p>(追加)</p>
<p><u>イ</u> (略)</p> <p><u>(ア)</u> 流入管、移流管、放流管、送気管等の勾配に注意しながら配管する。</p>	<p><u>(イ)</u> (略)</p> <p><u>a</u> 流入管、移流管、放流管送気管等の勾配に注意しながら配管する。</p>	<p>(変更)</p> <p>(追加)</p>
<p><u>(イ)</u> 流入管きよに設ける<u>升</u>は、すべてインバート<u>升</u>とする。</p>	<p><u>b</u> 流入管きよに設ける<u>桷</u>は、すべてインバート<u>桷</u>とする。</p>	<p>(変更)</p>
<p><u>(ウ)</u> 必要な箇所には防臭蓋、トラップ<u>升</u>を用い、防臭対策を講ずる。</p>	<p><u>c</u> 必要な箇所には防臭蓋、トラップ<u>桷</u>を用い防臭対策を講ずる。</p>	<p>(変更)</p>
<p><u>ウ</u> (略)</p> <p><u>(ア)</u> (略)</p>	<p><u>(ウ)</u> (略)</p> <p><u>a</u> (略)</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p>
<p><u>(イ)</u> (略)</p> <p><u>(ウ)</u> (略)</p>	<p><u>b</u> (略)</p> <p><u>c</u> (略)</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p>
<p><u>(5)</u> (略)</p> <p><u>ア</u> (略)</p>	<p><u>オ</u> (略)</p> <p><u>(ア)</u> (略)</p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p>
<p><u>イ</u> (略)</p>	<p><u>(イ)</u> (略)</p>	<p>(変更)</p>
<p>2 <u>浄化槽の構造</u></p> <p><u>国土交通大臣が定めた構造方法 (構造例示型) 又は国土交通大臣</u></p>	<p>2 <u>構造基準</u></p> <p><u>昭和 55 年建設省告示第 1292 号に準ずるが、一般構造のほか本協</u></p>	<p>(変更)</p> <p>(変更)</p>

浄化槽施工マニュアル新旧対照表

新	旧	備考欄
<p><u>ワ</u> <u>イ</u>から<u>エ</u>までに定める構造とするほか、合併処理浄化槽として衛生上支障のない構造とすること。</p> <p>2. 2 既製コンクリート管浄化槽施工基準</p> <p>(1) (略)</p> <p>[参考図]</p> <p><u>底版</u>コンクリート</p> <p>(2) 既製コンクリート管本体の最大高さは、5mまでとすること（スラブ・<u>かさ</u>上げ・刃口部分を除く）</p> <p>(4) 既製コンクリート管ジョイント部はボルト締めを行い、既製コンクリート管のズレを防止する<u>こと</u></p> <p>なお、ボルト締めによるジョイント箇所は同一面上で3点以上とする<u>こと</u></p> <p>(5) (略)</p> <p>[参考図]</p> <p><u>底版</u>止水状況 目視</p> <p><u>底版</u>コンクリート</p> <p>(6) 流量調整槽は原則として1槽と<u>すること</u></p> <p><u>なお</u>、流量調整槽間の移流管による接続は禁止する。</p> <p>(7) 沈殿槽の移流管は漏水の可能性があるので水位-500mm以内までとする<u>こと</u></p> <p>(8) 開口部立ち上がり（<u>かさ</u>上げ）はスラブ上部より 300mm 以内とする<u>こと</u></p> <p>なお、それ以上になる場合は、点検用ステップ<u>又</u>はピット等により点検作業が容易にできる構造とすること</p> <p>[参考図]</p>	<p><u>(13)</u> <u>(1)</u>から<u>(12)</u>までに定める構造とするほか、合併処理浄化槽として衛生上支障のない構造とすること。</p> <p>2. 2 既製コンクリート管浄化槽施工基準</p> <p>(1) (略)</p> <p>[参考図]</p> <p><u>ベース</u>コンクリート</p> <p>(2) 既製コンクリート管本体の最大高さは、5mまでとすること（スラブ・<u>嵩</u>上げ・刃口部分を除く）</p> <p>(4) 既製コンクリート管ジョイント部はボルト締めを行い、既製コンクリート管のズレを防止する<u>。</u>なお、ボルト締めによるジョイント箇所は同一面上で3点以上とする<u>。</u></p> <p>(5) (略)</p> <p>[参考図]</p> <p><u>ベース</u>止水状況 目視</p> <p><u>ベース</u>コンクリート</p> <p>(6) 流量調整槽は原則として1槽と<u>し</u>流量調整槽間の移流管による接続は禁止する。</p> <p>(7) 沈殿槽の移流管は漏水の可能性があるので水位-500mm以内までとする<u>。</u></p> <p>(8) 開口部立ち上がり（<u>嵩</u>上げ）はスラブ上部より 300mm 以内とする<u>。</u>なお、それ以上になる場合は、点検用ステップ<u>また</u>はピット等により点検作業が容易にできる構造とすること</p> <p>[参考図]</p>	<p>(変更)</p>

